第88号
2022/9

PVかながわ ニュースレター

News

10月1日よりナイト8、10など価格改定
燃料費調整単価に上限はない！

東京電力EPのナイト8やナイト10などの時間帯別電灯契約は、10月1日より電気料金の改定がある（下表にナイト10の場合を示す）。再生可能エネルギー導入拡大に伴って昼と夜における電力コスト差が縮小され、夜間の電力単価を引き上げ（2円程度）昼間の単価を引き下げる（2円～3円）。すでに新規加入は受け付けておらず、時間帯別電灯を継続している契約者は太陽電池(PV)設置後10年以上経過している人がほとんどで、自家消費分の拡大に努力しており、昼間時間の料金低下を理由に買電量を増やすことはなく、夜間時間の料金上昇により収入を増やそうする電力会社の魂胆が透けて見える。それでも自家消費により昼の買電が減るPV設置者には有利な契約の筈なのだが、単純には言えない状況になりつつある。

近年の電力料金高騰の実情を考察してみたい。1ヶ月の電気料金は、以下の式で算出される。

基本料金＋（電力量料金単価±燃料費調整単価＋再生可能エネルギー発電促進賦課金単価）×使用電力量

（新電力でもほぼ同様の構成なので以下の話は新電力でも当てはまる）。再生可能エネルギー発電促進賦課金単価は、固定価格買取制度に基づいて電力会社が再エネ電力を買い取るための費用で年単位に上がっていく。最近の価格高騰の主因は、ウクライナ情勢の影響などによる世界的な発電燃料の値上により、燃料価格に応じて変動する燃料費調整単価が2021年9月頃から高騰している（下のグラフ参照）。燃料費調整額はこの単価に使用電力量を掛けて求めるので、月に2000円以上の値上げがあったことになる。東電EPの従量電灯Bなどのように上限規制のあるプランは、グラフのように2022年9月に**「燃料費調整単価が上限」**と表示され、5.13円が上限となる。8月30日には、旧電力の10月分の燃料費調整単価が発表され、全10社とも上限に達した。一方で自由料金プラン（2020年4月の約款変更でナイト8、10も自由料金プラン）には燃料費調整単価に上限がなく、このグラフと異なり9月以降も上昇は続く。従量電灯Bなどの契約に比べ、ナイト10などの時間帯別契約や新電力との契約は今後も燃料高騰の影響を受け続けるため、電力料金の動向を注視していくべきだ。（田辺記）

				単位	2022年9月30日までの料金単価(税込)	2022年10月1日からの料金単価(税込)
おトクなナイト10	基本料金	6kVA以下の場合		1契約につき	1,320円00銭	1,320円00銭
		7kVA～10kVAの場合			2,200円00銭	2,200円00銭
		上記をこえる1kVAにつき			286円00銭	286円00銭
	電力量料金	昼間時間	最初の80kWhまで	1kWhにつき	26円49銭	① 24円01銭
			80kWhをこえ200kWhまで		35円29銭	31円99銭
			上記超過		40円75銭	36円94銭
		夜間時間			12円73銭	15円26銭
	割引額	8時間通電機器をご使用の場合		1kVAにつき	44円00銭	② －
		5時間通電機器をご使用の場合			297円00銭	－
		通電制御型夜間蓄熱式機器をご使用の場合			198円00銭	－
	最低月額料金			1契約につき	330円44銭	330円44銭

世話人から

連絡事項

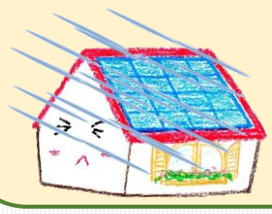
「**フォーラムかながわ2023**」も、今年と同様にオンラインとオンサイトのハイブリット開催を前提に検討を進めることしますので、会員の皆様は参加しやすい方法で、出席いただくことが可能です。取り扱うテーマなどにつきまして、ご意見やご要望がありましたら、お気軽にご連絡ください。

また、オンラインに挑戦してみたいという方も、ご相談ください。世話人会などのタイミングで体験の場を提供できると思います。

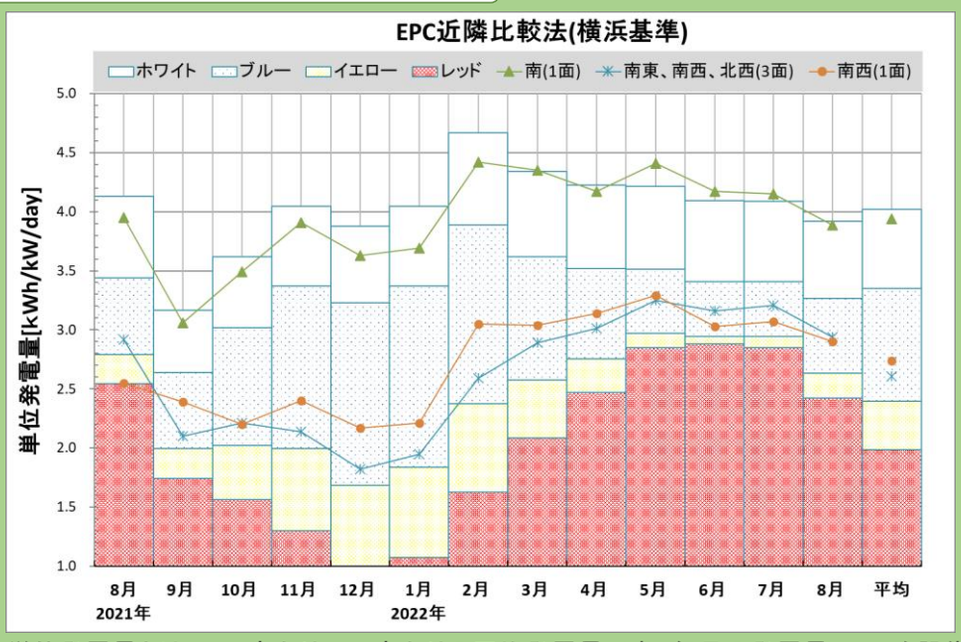
今後の予定

「出前発電所をつくろう！」ワークショップ第34回
日時：10月30日（日） 13:20～
会場：かるがも(星川駅)
（参加者募集中）

「まなぶんまつり」（保土ヶ谷）
日時：11月15日(火)、16日(水)
会場：保土ケ谷区役所 地下会議室
（開催企画を検討中！）



今月の単位発電量！



横浜の日照時間は平年値−16%でした。気象庁によると8月は「北・東日本日本海側と北日本太平洋側では、上旬から中旬にかけて前線や湿った空気の影響を受けやすかったため月降水量がかなり多く、月間日照時間が少なかった。3日～4日にかけては北・東日本日本海側の各地で線状降水帯が発生するなど記録的な大雨となった所があった。また、中旬には停滞前線の影響などで北・東日本日本海側では旬降水量が記録的に多くなった。東日本太平洋側では、暖かく湿った空気の影響を受けやすく、また、13日に伊豆半島に上陸した台風8号の影響でまとまった雨が降ったため、月降水量が多く、月間日照時間は少なかった。西日本では、上旬を中心に太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多く、その後も暖かい空気に覆われたため平均気温が高かった。」

単位発電量とは、1kWあたり、1日あたりの平均発電量です。毎月の発電量[kWh]を設備容量[kW]と日数で割ってください。
平均は直近12か月の単位発電量です。一般的に単位発電量は、ブルーの範囲になることが期待されます。北西など、やや北向きがある発電所はイエローになることもありますが、レッドが続く場合は、メーカなどに相談することをお勧めします。
※近年の太陽光システムは均質化や効率改善が進み、2000年初頭の物に比べ、実発電量が10%以上多くなることもあるので、補足としてホワイトを設けました。